

## 姫路科学館自然系ジュニア学芸員講座 2025 の活動について

藪中絢音、守丘涼真、伊藤駿、藪中音羽、小池桃花、浅妻正希、矢部真帆、  
藤尾結子、山本雪乃、飯野稜真、後藤匠海、前田悠希、穂前亮太、  
左尾凧登、宗友博杜、青田准樹（姫路科学館自然系ジュニア学芸員講座）、  
吉田航希、松本万尋、宮下直也（姫路科学館）

### 自然系ジュニア学芸員講座とは

「自然系ジュニア学芸員講座」は、学芸員の仕事の体験や地域の自然調査を通じ、調べる力やまとめる力、伝える力など、将来役に立つ力を身につけることを目的とした年間12回の連続講座である。対象は小学5年生～高校2年生で、受講生は年度初めに作文選考で決定される。受講生の目標や動機は、生物について詳しくなりたい、学芸員の仕事を学んでみたいなど様々である。2025年度は16人の受講生で以下の活動に取り組んだ。

### 第1回「学芸員の仕事について学ぶ」（2025年4月20日、写真(a)）

収蔵庫に入り、生物標本（昆虫・鳥・植物・きのこなど）や地学標本（化石・岩石・鉱物など）を見て、その管理方法や学芸員の仕事について学んだ。

### 第2回「プランクトン調査」（2025年5月11日、写真(b)）

姫路科学館に隣接するビオトープ、水路、ため池において、バケツとプランクトンネットを用いてプランクトンを採集し、顕微鏡で観察した。

### 第3回「化石のレプリカ作り」（2025年6月1日、写真(c)）

化石のレプリカを作るためのシリコン型を作製した。また、実際にアンモナイトと三葉虫のレプリカを「おゆまる」と「ねんど消しゴム」を用いて試作した。第5・6回で参加する「科学の屋台村」で「おゆまる」を使った化石レプリカ作りのブースを出展することとした。

### 第4回「科学の屋台村」の準備（2025年7月13日、写真(d)）

科学の屋台村のブース出展に向け、自然系ジュニア学芸員講座の活動内容を紹介するポスターや、ブースで配布する化石の解説書を作成した。

### 第5・6回「科学の屋台村」2日間（2025年7月19日・20日、写真(e)）

「作って！楽しもう！化石のレプリカ」というブースを出展した。お客さんに好きなシリコン型（アンモナイトまたは三葉虫）を選んでもらい、レプリカ作りに取り組んでもらった。2日目は材料切れのため途中から他ブースの運営補助にあたった。

### 第7回「樹木の調査」（2025年8月31日、写真(f)）

姫路科学館2階の窓から見える樹木の葉を採取し、葉の縁の形、葉の付き方などから同定した。同定した樹木の葉をA4用紙上に配置して、周囲に特徴などの解説を書き、ラミネートして展示物とした。

### 第8回「クモ調査」（2025年9月28日、写真(g)）

姫路科学館周辺の人工物（建物外壁、遊歩道など）やビオトープ、雑木林などにおいて、クモを撮影

または採集し、写真や実物を観察して同定した。

**第9回「トレイルカメラのデータ整理」(2025年10月26日、写真(h))**

9月下旬から10月上旬にかけて姫路科学館周辺の4か所にトレイルカメラを設置した。カメラを回収し、撮影されたほ乳類を同定、計数し、Excelを用いてリストにまとめた。

**第10回「シカが食べない植物の調査」(2025年11月30日、写真(i))**

姫路科学館周辺の雑木林において、シカの嫌う「シカ忌避植物」を調査した。植物を採集、同定し、リストにまとめた。その一部を使ってさく葉標本の作製にも取り組んだ。

**第11回「オサムシ掘り」(2026年1月11日、写真(j))**

姫路科学館周辺の雑木林の崖を掘ったり、朽ち木を崩したりして、その中で越冬している昆虫を採集した。採集した昆虫は標本にしたのち、同定した。

**第12回「自然のおはなし会」(2026年2月8日、写真(k))**

自然系ジュニア学芸員講座の1年間の活動内容を、姫路科学館の「自然のおはなし会」で発表した。



写真 (a)第1回 (b)第2回 (c)第3回 (d)第4回 (e)第5・6回 (f)第7回 (g)第8回  
(h)第9回 (i)第10回 (j)第11回 (k)第12回